

令和元年度

浜松市四大地財産区特別会計
歳入歳出決算審査意見書

浜 松 市 監 査 委 員

浜 監 第41-2号

令和2年10月7日

浜松市長 鈴木康友 様

浜松市監査委員 鈴木利享

浜松市監査委員 佐藤雅秀

浜松市監査委員 高林 修

浜松市監査委員 斉藤晴明

決算の審査意見の提出について

地方自治法第233条第2項の規定により令和元年度四大地財産区特別会計歳入歳出決算及び証書類その他政令で定める書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

令和元年度 浜松市四大地財産区特別会計歳入歳出決算の審査意見	1
第1 審査の基準	1
第2 審査の対象	1
第3 審査の期間	1
第4 審査の着眼点及び実施内容	1
第5 審査の結果	1
第6 決算の概況	1
1 決算収支	1
2 決算の計数	2
3 歳入	2
4 歳出	2
第7 財産管理の状況	3
1 公有財産	3
2 基金	3

凡 例

本文及び表の金額等の記述は、次の要領による。

- 1 本文及び表中に用いた年度は、原則として元号を省略した。
- 2 本文中に用いた金額は、原則として万円未満を切り捨てて表示した。
- 3 本文及び表中に用いた比率は百分率で、原則として、小数点第2位を四捨五入して表示した。
- 4 表中に用いた金額は、原則として千円未満を切り捨てて表示した。したがって、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 5 各表の資料は、会計決算書又は関係部局からの提出によるものである。

令和元年度 浜松市四大地財産区特別会計歳入歳出決算の審査意見

第1 審査の基準

この審査は、浜松市監査基準(令和2年浜松市監査委員告示第2号)に準拠して実施した。

第2 審査の対象

令和元年度浜松市四大地財産区特別会計歳入歳出決算

上記決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書

第3 審査の期間

令和2年7月1日から同年8月21日まで

第4 審査の着眼点及び実施内容

元年度浜松市四大地財産区特別会計の歳入歳出決算について

- ・ 審査に付された決算書その他関係書類が適正に作成されているか
- ・ 決算書類に記載された計数は正確であるか
- ・ 歳入歳出予算は適正に執行されているか

を着眼点とし、検証した。

審査手続については、試査を基礎として行い、会計管理者が所管する諸帳簿と照合し、計数の確認のほか、関係職員から説明を聴取し、予算の執行状況等について審査を行った。

第5 審査の結果

審査に付された浜松市四大地財産区特別会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は法令に適合し、かつ、その計数はいずれも正確で、歳入歳出予算の執行はおおむね適正であると認められた。

第6 決算の概況

1 決算収支

決算収支状況

(単位 金額：千円、比率：%)

区 分	元年度	30年度	増 減 額	対前年度比
歳 入 決 算 額 (A)	48,613	52,434	△ 3,820	92.7
歳 出 決 算 額 (B)	19,366	25,028	△ 5,662	77.4
歳入歳出差引額 (A)-(B)	29,246	27,405	1,841	106.7

歳入歳出差引額は184万円増加している。

2 決算の計数

令和2年5月31日(出納閉鎖日)現在における歳計現金の在 high は普通預金 2,924 万円で、元年度の歳入歳出差引額と合致する。

3 歳入

歳入の科目別内訳

(単位 金額：千円、比率：%)

区 分	元年度	30年度	増減額	対前年度比
財産収入	21,207	21,311	△ 104	99.5
財産運用収入	21,202	21,301	△ 99	99.5
財産売却収入	5	10	△ 5	50.0
繰越金	27,405	30,848	△ 3,442	88.8
諸収入	0	274	△ 273	0.0
合 計	48,613	52,434	△ 3,820	92.7

歳入は 4,861 万円で、30 年度に比べて、382 万円(7.3%)減少している。主として繰越金 344 万円の減少によるものである。

4 歳出

歳出の科目別内訳

(単位 金額：千円、比率：%)

区 分	元年度	30年度	増減額	対前年度比
議会費	1,050	778	272	135.0
議員報酬	225	204	21	110.3
視察研修費	774	529	245	146.3
議長交際費	3	0	3	—
一般諸経費	47	44	2	106.8
総務費	18,316	24,250	△ 5,934	75.5
一般管理費	1,130	1,348	△ 217	83.8
財産管理費	17,185	22,902	△ 5,716	75.0
合 計	19,366	25,028	△ 5,662	77.4

歳出は 1,936 万円で、30 年度に比べて、566 万円(22.6%)減少している。主として財産管理費 571 万円の減少によるものである。

第7 財産管理の状況

財産現在高

区 分			元年度末現在高	30年度末現在高	増 減 高	
公有財産	建 物	面 積 (㎡)	381.75	381.75	0.00	
	山 林	所 有	面 積 (㎡)	1,411,636.83	1,411,636.83	0.00
			立 木 (m ³)	7,287.20	7,161.79	125.41
基金	現 金	積 立 基 金 (千円)	253,940	250,440	3,500	

1 公有財産

(1) 建物

建物の面積は元年度末現在 381.75 m²で、30年度末と同じである。

(2) 山林

山林の面積は元年度末現在 141 万 1,636.83 m²で、30年度末と同じである。また、立木の推定蓄積量は元年度末現在 7,287.20 m³で、30年度末に比べて、125.41 m³増加している。これは自然成長によるものである。

2 基金

四大地財産区基金の現金は元年度末現在 2 億 5,394 万円で、30年度末に比べて、350 万円増加している。これは元金積立によるものである。

